



足立区議会だより

発行/東京都足立区議会 ☎(3880)5111 No.170



藤木二幸



井上市三郎



渡辺英章



中島 勇



大神田賢次



田中章雄

自由民主党
足立区議会



宮原 進

副議長



瀬田富男

議長



巻田清治



鹿浜 清



河合平内



石川 純



川下政信



長塩英治



平沢太郎



鈴木 進



安達正興



石鍋達夫



吉川 一



せぬま剛



馬場繁太郎



藤沼壮次



浜崎健一



白石正輝



白川由人



芦川武雄



山本明儀



ともとし春久

足立区議会
公明党



浅古充久



新井ひでお



鈴木きくお



藤田晴彦



杉崎征司



谷中慶子



藤崎貞雄



忍足和雄



西口喜代志



上田二郎



飯田豊彦



斉藤八郎



前野和男



橋本ミチ子



伊藤和彦



鈴木秀三郎



小野 実



今井重利



渡辺修次



針谷みきお



大島芳江

日本共産党
足立区議団



せがわ三則

無
会
派



小林ますみ



野中栄治



鈴木あきら



秋山秀俊

足立区議会
市民連合



さとう純子



ぬかが和子

議員（立候補予定者を含む）が、選挙区内にある者に対し、お歳暮・お年賀の贈りものをする場合は、公職選挙法により、議員資格剥奪の罰則をも似て禁止されています。また、受け取った人も、罰せられます。

年賀状（答礼のための自筆によるものを除く）を出すことも禁止されています。

区民の皆様におかれましても、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成11年度予算に対する 各会派の意見・要望(要旨)

足立区議会自由民主党

区長は、一昨年の区長選挙において、さまざまな公約をした。

ホテル建設反対は、その建設の経緯を十分理解せず、区長は都合のよい面だけを強調し、区民に誤解を与えた。現在、確かに公約どおりホテルは建っていないが、他の施設にしているにしてもその手法・手段が見つからず、庁舎跡地は暫定利用にとどまっている状況である。本来、地域の活性化の核として考えられていたものが、むしろ地域発展の足を引っ張っている状況で、現在の不況と相まって千住地域の地盤沈下を招いている。

区長の公約がいかに反対のため反対であり、不毛のものであったかが明白になっている。

また、選挙ビラには、「行革の結果、借金は2千280億円、全都最高額」とか「区財政は破綻、借金は区民1人当たり35万円」といった見出しが躍っていて、あたかも古性区政は乱脈経営をしていたかのような表現を使い、吉田区長になれば、区財政は、再建できると公約した。財政の問題は区の根本であり、守らなければならない大切な公約のはずである。

区長は、就任して2年となった。自前の予算編成は、9年度、10年度と2回行っている。

しかしながら、区の財政状況は、改善されるどころか一層悪化している。公約は守られていない。

参考までに、9月補正した時点での10年度予算の数字を使って、古性区政と比較してみると、地方債現在高と債務負担行為を合算し、積立金現在高を引いた将来への財政負担は、古性区政が編成した8年度会計決算では、区民1人当た

りの借金は32万2千円だったものが、10年度では33万4千円となり、古性区長当時より1万2千円も増えている。区の財政状況は、悪化の一方となっている。

区の平成11年度予算編成に向けての、各会派からの意見・要望は左記のとおりです。

放漫経営とか財政破綻という批判は、むしろ吉田区政にこそ向けられるものである。

いうまでもなく、地方自治体を取り巻く環境は非常に厳しくなっている。長引く不況と数度にわたる減税は、区財政に大きなダメージを与えている。

公債費比率は10年度末で11.9%となり、不況の影響による扶助費を初めとする義務的経費の増大によって、9年度決算では経常収支比率81.8%に達し、財政の硬直化は進んできた。

また、区内の生産年齢人口はピークより1万8千人の減となり、高齢人口は増え続けている。

一方、来年度の計画事業の投資額は、今年度と比べ140億円以上の増となり、いまや、財政のやりくりは限界に達しようとしている。

いまこそ行政改革に本気で取り組まなければ、区民への新しいニーズにこたえることはできない。

しかしながら、区長は、自身の選挙にあたって、職員組合と民間委託の見直しや職員数の増大を約束している。このことは、社会の要請に全く逆行する政策であり、不況に苦しんでいる区民の信任を得ることは出来ないと考ええる。

また、区長の公約で実現されたものは「ホテルを建設しなかった」ということだけで、それ以外の公約は何ら守られていない。

そればかりか、区長の公約のほとんどは部下に指示すらしていないことが先般の議会で明らかになった。努力して実現しないというの

であれば理解できるが、職員に公約実現の指示すらしていないということは前代未聞といわざるを得ない。

我が党が議会において、区長の公約実現の手法について質疑しても「今後、検討して」等の抽象的な答弁に今日まで終始し、公約の実現に努力する姿勢が一切見えな

いのである。

議会としても区長の公約について、その妥当性、合理性さえも審議できず、ただ、区長の政治姿勢についてのみ議論を重ねることは建設的でなく、区民にとって、誠に不幸なことと言わざるを得ない。

この区政の停滞を解消する為にも吉田区長が、64万区民の区長として、共産党の支配から脱し、偏ったイデオロギーにとらわれることなく、公平・公正な見地から区政運営にあたられることを強く望むものである。

そこで、現吉田区長に対して期待するものは全くないが、行政の継続性と一瞬たりとも歩みを止めない足立区議会の発展を願う立場から、執行機関に対するわが党の姿勢を以下に列挙するものである。

○特別養護老人ホームの整備拡充と在宅福祉サービスの充実を図ること。

○乳幼児医療費助成の所得制限を段階的に撤廃すること。

○統廃合された学校用地、校舎等を活用して高齢者福祉施設等の整備を図ること。

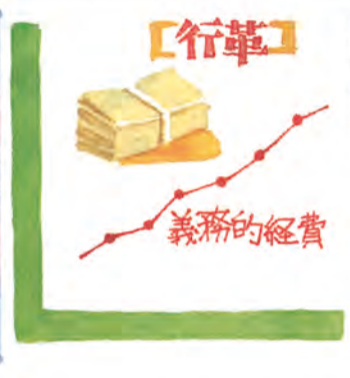
○中小零細企業への貸し渋り対策の強化、並びにマルケイ融資への利子補給制度を創設すること。

○官公需の区内中小業者への早急な発注拡大を図ること。

○遊休区有地の低料金による民間利用を促進すること。

○新製品、新技術開発及び新事業開発への支援を充実させること。

○「あだちブランド」の促進に向け、国内、海外見本市への助成の充実と産業振興センターの早期実現を図ること。



足立区議会公明党

足立区議会公明党は、「大衆とともに」との立党精神に基づいて、どこまでも住民の側に立つ政治姿勢を一貫して、取り続けてきた。その基本姿勢の上に立って、地方自治の目的は、住民福祉の向上に尽きるとの位置付けで、バランスのとれた活力のある足立区の構築に取り組んでいる。

期実現を図ること。
○私立幼稚園に対する補助金の増額を図ること。
○防災対策の充実により区民の生命・財産を守ること。
○メトロセブンの実現に区をあげて取り組むこと。
○徹底した職員の削減と民間活力の導入により区民サービスの向上を図ること。
○平和不戦都市宣言を行うと共に、平和資料館の建設、平和の日の設定など平和事業の推進に取り組むこと。

日本共産党足立区議団は、長らく不況で区民生活がますます深刻になる中、区内の多くの様々な団体との懇談や個人からの要望を検討し、予算要望をまとめた。その中の重点要求の一部を報告する。

○「区長と語る会」を団体だけでなく、幅広い区民と意見を交換できる場に改善し、区民の意見反映の機会を拡大すること。
○区内公共施設を循環するミニバスを導入すること。また、交通手段過疎地域の不便を解消するため、乗合タクシーを導入するよう働きかけること。

日本共産党足立区議団は、長らく不況で区民生活がますます深刻になる中、区内の多くの様々な団体との懇談や個人からの要望を検討し、予算要望をまとめた。その中の重点要求の一部を報告する。

○高齢者住宅改造成成制度の限度額の増、対象項目増、利用者負担の軽減など改善すること。区内業者を活用した場合のプレミアムにも配慮すること。
○子どもの学習環境を改善する立場から、学校修繕予算を現場の声にこたえて増額し、学校環境をよくすること。
○介護保険実施に伴う体制を整えるため、介護を必要とするすべての人が給付を受けられるように施設、在宅ともに介護給付の基盤整備を重点にして早急に整

えること。特に、ホームヘルパーなどマンパワーの確保・育成策と特養ホームなどの建設を急ぐこと。
○区に基幹型介護センターを設け、その運営に医師会もメンバーに加えること。
○敬老入浴券の枚数を増やすこと。
○国の政策変更に関わらず、がん検診を継続し、胃がん、大腸がん、肺がん検診は区内の医療機関でも受診できるよう改善し、子宮癌、乳癌検診を含めて、二次検診も無料とすること。
○生業資金の貸付け限度額を200万円に引き上げ、事業継続の運転資金も貸し出し理由に加えること。保証人についても第三者に限定しないこと。
○厳しい区民の生活実態に鑑み、保育料を初め、区の公共料金を据え置くこと。
○乳幼児医療費助成制度については、所得制限を撤廃すること。
○清掃事業の区移管に伴い、業者、団体等の要望を受け止め、反映すること。
○区民参加の機会を拡大し、区の施設や建築物、公園等の計画の際には、プランの段階から住民参加の仕組みを全庁的に徹底すること。

日本共産党足立区議団

日本共産党足立区議団は、長らく不況で区民生活がますます深刻になる中、区内の多くの様々な団体との懇談や個人からの要望を検討し、予算要望をまとめた。その中の重点要求の一部を報告する。

○「区長と語る会」を団体だけでなく、幅広い区民と意見を交換できる場に改善し、区民の意見反映の機会を拡大すること。
○区内公共施設を循環するミニバスを導入すること。また、交通手段過疎地域の不便を解消するため、乗合タクシーを導入するよう働きかけること。

1 一党一派に偏重せず、公平、公正、透明な民主的区政運営に改められたい。
2 他区にさきがけ行った積極的な財政改革の取り組みを継続されたい。
3 平成11年度予算は、一層の歳入歳出両面にわたる徹底した見直しをし、あらゆる不況対策事業を最優先とされたい。



足立区議会市民連合

地方自治体における議会と執行機関は、車の両輪であると言われるが現区長就任後2年2ヶ月が経過した現在でも、議会と区当局との意志の疎通は正常とはいえず、議会の論議も区長の胸に止めるだけの不毛の状態が続いている。

区長は、「区民が主人公」「議会とよく相談して」とよく発言するが、そのじつ、自治体議会にはありえない「区長与党」を標榜する一部政党と結託し、党利党略を意図として新たな支持層の拡大目的の施策のみに汲々とし、区長選時の公約はすべて事業化されず「公約違反」であり、自身に都合のよい審議会委員の差し替え、三役の不在と選任責任の放棄、区長自身の情報の非公開、前代未聞の議会挨拶の一部削除という議会軽視など「無責任な独善」としか言い表せない区長の行政手法や、私ども会派のこれまでの予算要求や、議会、委員会での提言、要望に対し、真摯に受け止めようとしない区長の姿勢を鑑み、今回の予算要求書の提出は見送ると決定したところだが、区民生活の現下の状況を鑑み、あえて三点求めておく。

1 一党一派に偏重せず、公平、公正、透明な民主的区政運営に改められたい。
2 他区にさきがけ行った積極的な財政改革の取り組みを継続されたい。
3 平成11年度予算は、一層の歳入歳出両面にわたる徹底した見直しをし、あらゆる不況対策事業を最優先とされたい。